

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 27 日現在

機関番号： 13501

研究種目： 若手研究 (B)

研究期間： 2009~2012

課題番号： 21730680

研究課題名 (和文) 東南アジアにおける国際的留学生移動と女性のキャリア形成

研究課題名 (英文) International Student Mobility and Career Development of Women in Southeast Asia

研究代表者

鴨川 明子 (KAMOGAWA AKIKO)

山梨大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：40386545

研究成果の概要 (和文)：

本研究の目的は、東南アジア地域内における国際的留学生移動をめぐる女性のキャリア形成の意識と実態について実証的に明らかにすることにある。研究成果として、①マレーシアを事例とする国内の高校生の進路形成に関する新動向、②各国の高等教育の国際戦略と留学生移動、③アジア域内の留学生のキャリア形成に影響を与える地域機関によるプログラムとカリキュラムの現状について明らかにした。

研究成果の概要 (英文)：

The objective of this study is to reveal the issues and directions concerning career development in international student mobility in Southeast Asia. In conclusion, 1) there is a new trend of Malaysian students' career development. 2) This research presents the basis for the trends and history of student mobility. Particularly, the study focuses on the international strategy of higher educational institutions with respect to student mobility programs. 3) The research deals with programs and curricula conducted by regional organizations and leading universities. The programs and curricula will have an impact on their career development towards Asian regional network.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	900,000	270,000	1,170,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	0	0	0
2012 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	2,400,000	720,000	3,120,000

研究分野： 社会科学

科研費の分科・細目：教育学、教育社会学

キーワード：(1) 学生移動(2)留学生 (3) 高等教育の国際戦略 (4) ジェンダー

(5) キャリア形成(6) 東南アジア(7) 地域機関(8) 多国間の学生交流

1. 研究開始当初の背景

(1)1990年「万人のための教育(EFA)世界会議」以降、国際機関や援助国の教育開発に関する主要な関心の一つに、初等教育段階における男女間の教育格差を解消することがあった。加えて、2000年「ミレニアム開発目標(MDGs)」では、初等教育の完全普及だけでなく、社会におけるジェンダー平等の推進が盛り込まれている。しかしながら、東南アジア地域には、既に初等・前期中等教育が完全に普及しつつある国も多い。そのため、後期中等教育や高等教育など、より高い教育段階における「学校から社会への移行」も視野に入れて、男女間の教育格差の問題に接近することが求められる。

(2)また、東南アジア地域では、国内での男女間格差こそ解消されつつあるにもかかわらず、植民地時代から続くエリート養成型の留学に格差が残された国もある。「人の移動」が進む現代において男女間格差を構造的に理解するためには、国内の「静的」な格差の構造だけではなく、国際的かつ「動的」な格差の構造に目を向けなければならない。さらに、留学生の移動という研究課題は、政策的な動向というマクロ的側面からとらえられることは多いが、留学生自身のキャリア形成というミクロ的な側面から分析されることは少ない。

2. 研究の目的

このような学術的背景を踏まえて、本研究

では、東南アジアのタイ、マレーシア、インドネシア、シンガポールを対象として、以下の3点について明らかにすることとした。

(1)東南アジア4カ国の国内における男女間教育格差の現状と課題を明らかにすること；

(2)東南アジアの国際的な留学生移動における男女間格差の現状と課題を明らかにすること；

(3)東南アジアの国際的な留学生移動における女性のキャリア形成の実態と、女子留学生のニーズを示すモデルを構築すること；

3. 研究の方法

本研究は、3年間に渡って実施した。

(1)初年度には、研究対象国内における男女間教育格差に関する現状と背景について文献調査により整理するとともに、予備的な訪問調査を実施した。

(2)第2年度には、大学における留学生を対象とした実地調査に従事した。

(3)最終年度には実地調査をもとにして、女子留学生のキャリア形成のダイナミズムをモデル化した。

4. 研究成果

(1)初年度には、研究対象国内における男女

間教育格差に関する現状と背景について文献調査により整理するとともに、予備的な訪問調査を実施した。特に、近年注目されつつあるアジア域内での留学生移動に着目した。たとえば、タイ(2009年8月下旬、RIHED, AUN, チュラロンコーン大学ほか)では、高等教育の国際戦略と留学生移動に関する予備的ヒアリングを行った。また、マレーシア(2010年3月中旬、ペラ州中等学校、マレーシア国民大学ほか)では、女子高校生の留学意識に関する調査の実施可能性について探った。これら文献資料の調査結果と実地調査の計画を、アメリカ比較・国際教育学会と日本国際教育学会で諮り修正した。

(2)第2年度には、世界各国における留学の男女間教育格差に関する現状と背景について文献調査により整理した。加えて、初年度に引き続きマレーシアの現地調査(8月)に赴き、高校から大学への接続(高大接続)の現状と課題を明らかにした。

また、前年度にタイ・マレーシア・シンガポールで収集した文献資料の調査結果等について、学会等で成果を公表してきた。

加えて、海外調査の予備段階として、大学から就職への接続時の留学生を対象とする実地調査に従事した。



なお、H23年度は、研究代表者が産休と育休を取得したことにより研究を中断するこ

ととなった。

(3)最終年度は、育児と所属校の異動により海外調査に赴くことが困難であったため、過去2年間で実施した調査データをもとに、国際的な留学生移動の全体像をまとめた。また、日本国内におけるアジアからの留学生に対するインタビュー調査を実施し、学生移動の全体像と個別のキャリア形成の特徴を示した。これらのデータの収集と分析に際して、早稲田大学アジア太平洋研究科の留学生の支援を得た。

研究の成果について、日本比較教育学会、アジア比較教育学会(CESA)等で公表した。補足的に、他の科研と連携しながら、ブルネイにおける市民性教育の現状と課題を論文にまとめ公表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

(1) 鴨川明子「東南アジアにおける高等教育の地域連携ネットワーク—地域機関による先駆的なプログラムを中心に—」早稲田大学教育学会『早稲田大学教育学会紀要』第13号、2012年、pp.127-134. 査読無.

(2) シンチェンロン、西山雄大、マシェン、上見郁子、鴨川明子「日本における外国人留学生のキャリア形成—早稲田大学アジア太平洋研究科院生を対象とする予備調査より—」GIARI Working Paper Volume2010. J-4., pp.1-27. 査読無.

http://www.waseda-giari.jp/jpn/research/achievements_detail/1071.html?PHPSESSID=f8a1a440dafeda3a6cfc29d237293ceb

(3) 鴨川明子「独立後マレーシアにおける女子教育政策の展開」早稲田大学アジア太平洋

研究センター『アジア太平洋討究』第13号、
2010年4月、pp. 109-120. 査読無.

(4) 鴨川明子 「マレーシアにおける女性の進路選択—何に迷い、何を選ぶのか—」 国際経済労働研究所『季刊マレーシア 冬号』2009年12月、pp. 5-20. 査読無.

[学会発表] (計8件)

(1) Miki Sugimura, Fujio Ohmori, Akiko Kamogawa, Hiroko Akiba, Malaysian Case Studies of Student Mobility, International Forum of Higher Education 2013, Sophia University, Japan, February 2, 2013.

(2) Akiko Kamogawa, Student Mobility Programs towards Asian Regional Networks in Higher Education: Cases of Regional Organizations and Universities in Thailand, Malaysia, Singapore, and Japan. Comparative Education Society of Asia Annual Conference 2012, Chulalongkorn University, Bangkok, Thailand, 9 July 2012.

(3) 鴨川明子 「アジア域内における多国間学生移動を促進するプログラム—東南アジアに拠点を置く地域機関および大学の事例を中心に—」 日本比較教育学会第48回大会 (於:九州大学) 自由研究発表、2012年6月17日.

(4) 鴨川明子 「東南アジアにおける高等教育の地域連携ネットワーク」 早稲田大学教育学会 (於:早稲田大学)、2012年3月3日。

(5) Akiko Kamogawa, Gender Equality in Asian Higher Education and Student Mobility, Comprehensive Studies on Internationalization of Higher Education under Rapidly Changing Global Context, Sophia University, Japan, 11 December 2010.

(6) 鴨川明子 「東南アジアにおける高等教育の国際化と留学生移動」、日本国際教育学会第21回大会自由研究発表 (於:仙台白百合大学)、2010年9月11日。

(7) 鴨川明子 「マレーシアにおける高校から大学への接続」、日本比較教育学会第46回大会自由研究発表 (於:神戸大学)、2010年6月26日。

(8) Akiko Kamogawa, New Programs and Curricula towards an Asian Regional Network:, Pre-Forum Session Part2: International Student Mobility and Exchange in Asia, International Higher Education Forum(IHEF), Waseda University, 29 October 2009.

[図書] (計3件)

(1) 森下稔・服部美奈・鴨川明子 (2013) 「第9章 定性的手法を用いた比較教育学研究」 山田肖子・森下稔編『比較教育学の地平を拓く—多様な学問観と知の協働—』東信堂、pp. 209-223、全442頁。

(2) 鴨川明子 「マトリキュラシ(pp. 365-366)」 「男女共学(p. 265)」 他項目執筆、日本比較教育学会編『比較教育学事典』、東信堂、2012年、全424頁。

(3) 鴨川明子 「アジア域内の教育ネットワーク—東南アジアにおける地域機関・政府・大学における制度形成—」 松岡俊二・勝間田弘編著『アジア地域統合講座 総合研究シリーズ第一巻 アジア地域統合の展開』勁草書房、2011年、pp. 163-186、全326頁。

(4) Akiko Kamogawa. Career Development of Women in Malaysia. Ramlee Mustapha, Norzaini Azman & Abdul Razak Ahmad (eds.), Education for Diverse Learners, 2009, pp. 204-215. Serdang, Malaysia: Universiti Putra Press、全252頁。

〔その他〕

ホームページ等

http://www.waseda-giari.jp/jpn/research/achievements_detail/1071.html?PHPSESSID=f8a1a440dafeda3a6cfc29d237293ceb

6. 研究組織

(1) 研究代表者

鴨川 明子 (KAMOGAWA AKIKO)

山梨大学・教育学研究科・准教授

研究者番号：40386545

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし